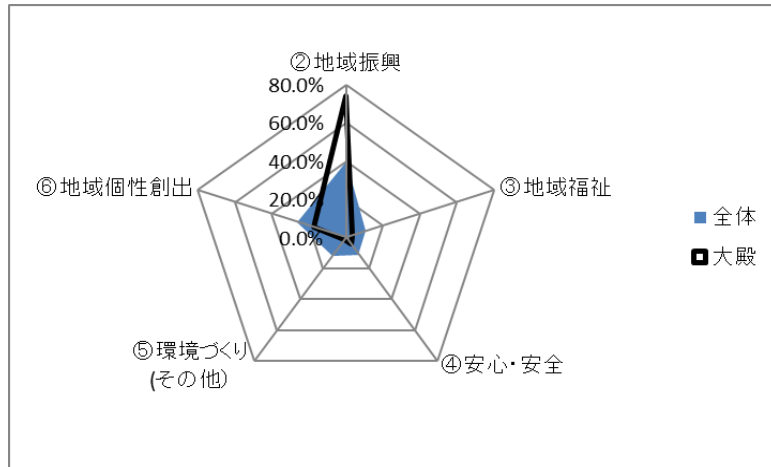


# おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(令和元年度)

## ■地域の情報

地域人口	7,329人	自治会数	29
世帯数	3,321世帯	自治会加入率	89.2%

※数値は、令和2年4月1日のもの



## ■決算状況

交付金配分枠	7,948,000 円
交付金決算額	7,806,172 円
その他収入	1,323,250 円
交付金決算額／配分枠	98.2%

## 各分野の決算

①協議会運営	5,316,858 円
②地域振興	2,820,204 円
③地域福祉	127,487 円
④安心・安全	162,335 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	50,050 円
⑥地域個性創出	652,488 円
決算総額	9,129,422 円

## ■地域づくりの活動方針(テーマ)

働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまちづくり

## ■総括

第4期大殿地域づくり計画の基本目標の「働くところがあり」に込めたやりがいやいきがいにつながるように、地域住民に幅広い参加を促すタイムリーな情報発信に努めてきた。

専門部会(あんぜん部会・やすらぎ部会・にぎわい部会)と運営委員会の位置づけとして、

・専門部会は、地域課題一つ一つの視点を明確にしてその解決策を協議、検討する。

・運営委員会は、地域内の連携強化のため「まず知り合うことから」というスタンスで協議を重ねている。

今年度は、地域づくり計画に明記した「チーム大殿」構想に向けた取り組みとして、広報一元化の試行や次年度に向けた準備のための調整会議を実施してきた。

今後は、地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討し、併せて地域コーディネートの手法を模索していきたい。

## ■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費および事務費
② 地域振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域情報の発信と広報活動事業</li> <li>・地域コミュニティ推進事業</li> <li>・地域行事の活動支援事業</li> <li>・助成金交付事業</li> </ul>
③ 地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三世代交流事業</li> <li>・健康教室事業</li> <li>・おおどのたすけあいのまちづくり事業</li> </ul>
④ 安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大殿地区安心安全のつどい事業</li> <li>・地域見守り活動事業</li> <li>・自主防災活動推進事業</li> <li>・反射鏡設置事業</li> </ul>
⑤ 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備事業</li> </ul>
⑥ 地域個性創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化の保存継承事業</li> <li>・体育振興事業</li> </ul>

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	①地域情報の発信と広報活動事業 ②地域コミュニティ推進事業(つながり)	決算額	361,546円
	目的	①地域情報の共有や発信を進めていくため ②新たな人材の巻き込みや地域交流を通じて連携強化を図るため		
	実施内容	①ホームページの定期更新及びコミュニティだよりの発行。広報紙一元化に向けた試行。 ②研修事業(庭木の学校、防災施設の視察研修)の開催		
	実施時期	①平成31年4月～令和2年3月 ②令和元年6月1日、8月31日、11月2日		
	参加人数	①120人 ②240人		
	成果	①事業の告知・報告を定期的に発信できた。一元化に向けた試行として、合併号の発行やHPに地域の広報紙コーナーを追加するなどの工夫ができた ②研修事業では参加者の学習意欲やボランティア意識の把握ができた。今年度から受講2回目で受験できるマイスター検定(庭木の管理)を実施し、1名の合格者があった。		
	評価	①広報紙一元化に向けた検討は事業目的の共通理解にたつて、「到達点」を明確にし、調整を進める必要がある。 ②研修事業は新たな参加者を巻き込むための学校シリーズ(多様なメニュー)の検討も必要。		
今後に向けて	①地域の人を巻き込んだ情報発信のありかたを検討していく。 ②地域の良さや魅力の再発見と新たな人材の巻き込みにつながる事業を目指して、まちづくりを知ってもらう、参加してもらう、参画してもらう、それぞれの段階で関われるメニューを用意するなど、会員が支える事業から住民が参画する事業へシフトしていく仕掛けを検討していく。			
②	事業名	自主防災活動推進事業	決算額	49,252円
	目的	災害時に備え、各町内の自主防災組織立ち上げの推進を図るため		
	実施内容	自主防災活動推進のための防災施設視察研修を企画した。		
	実施時期	令和元年8月31日		
	参加人数	55人		
	成果	岩国市防災館視察研修では部会員が中心となって意見交換が実施できた。		
	評価	視察研修の企画、交流会での意見交換など、部会員が積極的に役割を果たした。		
今後に向けて	地域の防災意識を高めるための情報収集や部会での協議を情報発信していきたい。			
③	事業名	伝統文化の保存継承事業	決算額	602,288円
	目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図るため		
	実施内容	「つながる大殿七夕ちょうちん」事業を実施した。地縁の復活をめざして取り組んでいることを実行委員会で共有するとともに住民への情報発信に努めた。		
	実施時期	令和元年5月～令和2年2月		
	参加人数	680人		
	成果	町内会をはじめ、大勢のボランティアの皆さんの協力によって継続実施できた。「つながる大殿七夕ちょうちん」事業では子ども歴史学習会を「わくわくチャレンジ教室 大殿」との共催で実施した。人形劇や大内ボードゲーム(山大生考案)なども取り入れて、楽しく学習できた。 八坂神社のちょうちん配置本数を減らし、LEDの飾りつけなど見直しの工夫もしていたが、雨天のためちょうちんは中止し、ミニ縁日、和楽コンサートを縮小実施した。町内会や子ども会の連絡網などで小雨の中だったが、伝承センター会場の催しは盛況だった。 竹伐り成形作業の参加者を増やすアイデアなど次年度に向けた部会協議も行った。		
	評価	中止により八坂神社の見直しの成果が検証できていないため、持続可能な運営について引き続き協議する必要がある。		
今後に向けて	会員による事業運営から住民を巻き込んだ事業運営にシフトしていくという視点も入れた協議を深めるとともに、地域のお宝再発見(情報共有)のための協議も進めていきたい。			